平成２７年度

社会福祉法人　開成町社会福祉協議会　事業計画

はじめに

少子高齢化の進展や単身世帯の増加により、地域における近隣関係の希薄化や社会的孤立の課題をはじめとした、介護や医療、住まい等生活課題へのニーズが増大しています。

こうした状況に対応するため、国レベルでは、介護保険制度の見直しや地域包括ケアシステムの構築、生活困窮者自立相談支援制度など、改めて暮らしの場である市町村域を基盤とした相談・支援体制のしくみづくりへ向け、制度が動いています。

また、県レベルにおいても、生活困窮者支援を含む総合相談の普及・推進とネットワーク形成への取り組み強化が模索されています。

そうしたなか、開成町社会福祉協議会は、これまでも住民主体による福祉コミュニティづくりに邁進してまいりましたが、「かいせい社協法人運営改革委員会（H25-26）」から改革の方向性が示され、その着実な遂行が課せられました。これからよりいっそう地域住民の方々や公私の社会福祉関係機関・団体等との有機的な連携と協働のもと、先駆性・開拓性を最大限に発揮し、そのネットワークにより新たな福祉課題に対応したサービスの開発や相互のコーディネートをすすめ、地域福祉推進の中核組織として寄せられる期待に応えてまいりたいと考えます。

一人ひとりの声を大切に、生涯にわたる生活を総合的に支えるしくみをコミュニティワークの実践をつうじて築いていくこと、開成町らしさあふれる“共助”文化の創造をめざして、本年度は次の事業・活動をすすめてまいります。

基本理念

みんなで育もう！　誰もが安心してイキイキと暮らせる福祉のまち　かいせい

基本目標

① みんなでつながりあい、支えあい、
　　誰もが福祉活動に参加できる地域社会をめざそう！
【参加／コミュニティワーク】

② 一人ひとりのニーズをもとに、
　　暮らしに根ざしたサービス・支援体制を開発・実施、提言しよう！
【支援／ケアワーク】

③ 地域のあらゆる機関・団体と協働して、
　　計画的に福祉ネットワークづくりに取り組もう！
【連携／ネットワーク】

組織図

＊理事12人には、会長1人、副会長2人、常務理事1人を含む。

事業体系図

基本理念

みんなで育もう！　誰もが安心してイキイキと暮らせる福祉のまち　かいせい

基本目標

みんなでつながりあい、支えあい、誰もが福祉活動に参加できる地域社会をめざそう！

参加／コミュニティワーク

地域のあらゆる機関・団体と協働して、計画的に福祉ネットワークづくりに取り組もう！

連携／ネットワーク

一人ひとりのニーズをもとに、暮らしに根ざしたサービス・支援体制を開発・実施、提言しよう！

支援／ケアワーク

実施計画

福祉・企画部門

住民参加による地域の福祉力の向上

地域福祉活動推進　関係

- ①自治会福祉活動の支援
- ②ボランティアセンター事業の推進
- ③当事者活動の支援
- ④広報啓発事業の充実
- ⑤福祉教育事業の充実

組織・運営基盤の整備・強化

法人運営　関係

- ⑥事業推進体制の整備

福祉サービス部門

総合的な生活支援のしくみづくり

福祉サービス利用支援　関係

- ⑦安心センター事業の充実
- ⑧総合相談・援護事業の充実

在宅福祉サービス　関係

- ⑨在宅福祉サービスの推進（介護保険外）
- ⑩介護保険事業の推進
- ⑪地域包括支援センター事業の推進

＊◎：新規、○：一部新規

□　福祉・企画部門　□

地域福祉活動推進　関係

01　自治会福祉活動の支援

①　自治会福祉活動サポート事業の実施

【目的】	暮らしに身近な小地域（自治会エリア）において、さまざまな人々が互いにたすけあい、交流できるようにする取り組み（自治会福祉活動）が、それぞれの地区にふさわしい創意と工夫を活かしたものとして主体的かつ継続的に展開できるよう支援します。（助成金交付等）		
【目標】	開成町らしい共助活動のレベルアップと支援方策のアップデート （H26 年度地区別ふくし座談会結果を踏襲）		
【目標達成度を計る指標】	（ふれあい・いきいきサロン等を含む）各地区事業の開催回数	現状（H26） 464 回 ＊H26 各地区計画より	目標（H27） 475 回

②　自治会福祉部連絡会の開催

【目的】	各地区の事業進捗状況についての情報交換と今後の新たな活動展開及び課題についての意見交換等を行うために、連絡会を 3 回（町単②、広域①）開催します。		
【目標】	地域における新たな福祉課題のキャッチと柔軟・先駆的な取り組みへのアプローチ強化 （H26 実施の地区別ふくし座談会結果を踏襲）		
【目標達成度を計る指標】	連絡会時における自治会福祉部長発言者の割合（問題意識の共有とスキルアップを図るために~）	現状（H26） 80%	目標（H27） 100%

③　自治会福祉部の育成・支援

【目的】	地区担当職員（福祉活動専門員）を派遣し、情報提供・助言等を行うことにより、各地区の特性に応じた福祉活動を支援します。		
【目標】	開成町らしい共助活動のレベルアップと支援方策のアップデート （H26 実施の地区別ふくし座談会結果を踏襲） （自治会福祉活動サポート事業とリンク）		
【目標達成度を計る指標】	職員派遣回数（年延）	現状（H26） 79 回 ＊H25 実績	目標（H27） 80 回 ＊H26 目標同

02　ボランティア活動の推進（ボランティアセンター事業）

①　ボランティア講座の開催（救急法、手話）

【目的】	ボランティア活動に興味のある方々を対象として、知識の習得と住民の主体的な福祉活動であるボランティア活動への参加を促進することを目的に、ボランティア活動入門編としての①救急法、②手話及び③障がい児者支援（レスパイトサービス）の各講座を開催します。		
【目標】	講座の開催（各講座参加 10 人以上） 協力団体（ボランティア団体）の組織強化		
【目標達成度を計る指標】	参加者数 講座内容	現状（H26） 71 人	目標（H27） 75 人

②　ボランティア活動交流会の開催

【目的】	町内外で活動するボランティアグループ等が集い、お互いの交流を深め、情報と課題を共有し、ボランティアネットワークの拡大を図ることを目的に、交流会を開催します。		
【目標】	情報を共有しボランティアネットワークの拡大 全登録団体の参加		
【目標達成度を計る指標】	参加者数	現状（H26） 10 人＊見込	目標（H27 末） 15 人

③　ボランティアの発掘・育成

【目的】	ボランティアの発掘・育成を図り、新規登録を促進します。		
【目標】	団体登録　＋1 団体 個人登録　＋10 人		
【目標達成度を計る指標】	個人登録者数	現状（H26） 30 人	目標（H27） 40 人

④　ボランティアグループ等の育成・支援

【目的】	情報提供等を行うとともに、活動費の一部を助成し、活動を支援します。		
【目標】	団体の活動状況の把握		
【目標達成度を計る指標】	登録グループ数 活動状況の把握	現状（H26） 11 グループ	目標（H27） 12 グループ

⑤　お互いさま活動「ちょこボラ」の実施

【目的】	住民互助型の新たなボランティア活動を推進します。		
【目標】	登録者数　2 人 派遣件数　10 件		
【目標達成度を計る指標】	登録者数 派遣回数	現状（H26） 登録　0 人 派遣　0 件	目標（H27） 10 回

⑥　ボランティアセンター機能の整備・強化

【目的】	ボランティア活動に関する情報の整備・提供、相談及びボランティアの登録促進・育成等を行うことにより、ボランティアセンター拠点機能の整備・強化を図ります。		
【目標】	災害ボランティアセンターの設置及び運営マニュアルの作成及び町との協定（締結）準備		
【目標達成度を計る指標】	センター機能の充実・強化 総合的な取り組み	現状（H26） 実施	目標（H27） 総合的な取組強化

03　　当事者活動の支援

1）高齢者関係

①　敬老会の開催（開成町共催）

【目的】	多年にわたり社会に貢献してこられた高齢者に敬意を表し、長寿をお祝いするとともに、敬愛精神の高揚と高齢者福祉の一層の推進を図るために、「開成町敬老会」を開催します。「開成町敬老会」の開催に際し、結婚 50 年（金婚）ならびに同 60 年（ダイヤモンド婚）を迎えられたご夫妻のご長寿を祝うことを目的として、町民有志の協力による手づくりの記念品を贈呈する「長寿夫妻記念品贈呈事業」を実施します。		
【目標】	魅力ある内容の開発とより多くの高齢者や家族の参加 長寿夫妻記念品贈呈事業 希望される当日来場者の写真撮影（上記事業に含む）／敬老会終了後渡せるように準備 （長寿夫妻記念品贈呈は該当に達してから 3 年まで）		
【目標達成度を計る指標】	来場者数 当事者の出演など余興メニューの充実 役割分担の明確化	現状（H26） 来場者 200 人	目標（H27） 来場者 250 人

② ふれあい交流会の開催（民生委員児童委員協議会共催）

【目的】	日ごろ外出の機会の少ない方々に社会参加促進の機会を提供し、参加者相互の交流・仲間づくりの場とすることを目的に「ふれあい交流会」を開催します。		
【目標】	新たな参加者の発掘（転入者）・歓談、余興以外のプログラムの開発（実行委員会で検討） 送迎方法の検討／家族と同居の場合は積極的に家族に送迎いただく、など 実行委員会機能の強化		
【目標達成度を計る指標】	新規参加者の発掘（転入者等） 魅力ある内容への転換	現状（H26） 参加総数 130 人	目標（H27） 参加総数 150 人 （対象者 120 人）

③ 老人クラブ連合会の支援（事務局）

【目的】	当事者の固有な課題の解決、相互援助活動の促進を図るために活動を支援します。		
【目標】	会員加入の促進活動増強 地区担当職員との協働		
【目標達成度を計る指標】	会員数 5%増	現状（H26） 1,011 人	目標（H27） 1,060 人

2）障がい児者関係

① 足柄上郡障がい者ボウリング大会の開催（足柄上郡 5 町社協共催）

【目的】	障がいをお持ちの方の社会参加を促進する事業の一環として、企業の協賛（招待）を受けてボウリング大会を開催します。		
【目標】	土日祝日開催の検討（実行委員会及び企業と調整） 《平日開催の場合、送迎人数に限界がある》		
【目標達成度を計る指標】	参加者数	現状（H26） 人	目標（H27） 20 人

② 障がい児者ネットワーク会議の開催

【目的】	障がいをお持ちの方の生活を支援する一環として、関係機関・団体との情報の共有化と連携強化を図り、ネットワーク化をすすめるためにネットワーク会議を開催します。		
【目標】	開催時期の変更／9 月→2 月（全体の事業が概ね終了した時期の開催・平成 26 年度より変更） 事業報告シート作成		
【目標達成度を計る指標】	連携強化・終了した事業等の確認、精査	現状（H26） 開催（1 回）	目標（H27） 開催（1 回） 事業等の確認、精査

③ 身体障がい者福祉協会と心身障がい児者と家族の会かるがもの支援（事務局）

【目的】	当事者の固有な課題の解決、相互援助活動の促進を図るために活動を支援します。		
【目標】	障がい者以外の団体との共同事業の企画・賛助会員制度の検討（関係団体の協力と加入促進） 活動の活性化及び次期役員の育成（情報提供・機能強化）		
【目標達成度を計る指標】	役員・会員研修会の実施 会員数	現状（H26） 52 人（2 団体計）	目標（H27） 役員研修会の開催 55 人（2 団体計）

3）ひとり親家庭関係

①　ひとり親家庭ネットワーク会議の開催

【目的】	ひとり親家庭の生活を支援する一環として、関係機関・団体との情報の共有化と連携強化を図り、ネットワーク化をすすめるためにネットワーク会議を開催します。		
【目標】	現状把握、関係機関との情報共有		
【目標達成度を計る指標】	連携強化・開催回数の検討	現状（H26） 開催（1 回）	目標（H27） 開催（1 回）

②　母子寡婦福祉会つくしの会の支援（事務局）

【目的】	当事者の固有な課題の解決、相互援助活動の促進を図るために活動を支援します。		
【目標】	増加傾向にあるひとり親家庭に対し他市町母子会との交流の場の設定 ニーズにあった活動を展開できるための情報収集、情報交換やレクリエーション等の場の設定		
【目標達成度を計る指標】	会員数 交流事業参加者	現状（H26） 18 人 交流会事業未開催	目標（H27） 20 人 交流会事業開催

4）子育て支援関係

◯①　子育て中の親子のサロン「チビッ子らんど」の開放

【目的】	未就学児とその親を対象に当事者が交流できる場をつくり、ふれあいを通じて孤立しがちな子育てを予防、子育て中の悩みやストレスを軽減します。		
【目標】	福祉会館の一室（2F 娯楽室、教養娯楽室）と 3F 人工芝バルコニー（ひよこ広場）の開放 子育て中の親子のサロンとしてチビッ子らんどの設置 自由に交流や情報交換ができるフリースペースの提供と定期的にボランティアスタッフを配置、見守り、相談体制の整備 チビッ子らんどフェスタ（仮称）の開催及び子育て世代への社協の PR		
【目標達成度を計る指標】	参加者数 フェスタ開催	現状（H26） 未開催	目標（H27） 開催（8 月予定）

◎②　子育て支援関係ニーズ調査

【目的】	子育て中の方の生活実態や施策・サービスへの要望等を把握し、課題や福祉ニーズを明確化するとともに、その解決へ向けて現行サービス改善の他、新規サービス創出のための基礎資料とするためにニーズ調査を実施します。		
【目標】	子育て支援事業に対する実情やニーズ把握 既存事業の役割の見直しと新たな事業の創出		
【目標達成度を計る指標】	実施とのまとめ	現状（H26） 計画なし	目標（H27） 調査実施とまとめ

04　　広報啓発事業の充実

◯①　広報紙「社協だよりかいせい」と「かいせい社協かわら版」の発行

【目的】	町社協活動・事業の PR と福祉情報の提供、福祉意識の啓発・醸成のために広報紙を発行し、町内全世帯、賛助会員及び関係機関等へ配布します。		
【目標】	住民に必要な情報の研究、提供、タイムリーな記事の掲載 ロゴ変更（文字はなるべく少なく、表紙に多く写真） モニター制度の導入検討 広報内容の検討（職員ミーティング）		
【目標達成度を計る指標】	分かりやすく親しみやすい紙面づくりの工夫 新しい記事（コーナー）の企画・掲載 広報紙設置場所を広報	現状（H26） 実施	目標（H27） 紙面研究 モニタリング

② 社会福祉大会の開催

【目的】	永年にわたり社会福祉に貢献された方々の功績を称えるとともに、住民参加の福祉のまちづくりをさらにすすめるために社会福祉大会を開催します。		
【目標】	イベント内容と開催時期の検討（フェスタ形式再検討）。		
【目標達成度を計る指標】	来場者数	現状（H26） 250 人	目標（H27） 350 人

◯③ ホームページの公開・更新

【目的】	町社協活動・事業のＰＲと福祉情報の提供、福祉意識の啓発・醸成のためにホームページを公開・更新します（福祉会館各部屋の予約状況公開含む）。		
【目標】	定期更新 住民に必要な情報の研究・提供 アクセス数アップ		
【目標達成度を計る指標】	アクセス数	現状（H26） 25,000 回（10 月） 1 か月約 400 回	目標（H26 末） 1 ヶ月 500 回

◯④ 地区別かいせい社協説明会の開催（会員加入の促進とのリンク）

【目的】	町社協の事業・活動と会員制度を紹介するとともに、広く住民の方々の福祉への理解と関心を高めていただくことを目的として、全自治会の組長会議等に赴き、説明会を開催します。		
【目標】	よりわかりやすいプレゼンテーションの遂行（見える化） 社協（会員制度含む）の必要性の訴求		
【目標達成度を計る指標】	参加者数 社協認知度の向上	現状（H26 末） 379 人 （÷13=地区平均 29.2 人）	目標（H27 年） 390 人 （÷13=地区平均 30 人）

05　福祉教育事業の充実

◯① 福祉教育推進事業への助成・支援（連絡会含む）

【目的】	保育園、幼稚園、小学校、中学校及び吉田島総合高等学校が各々実施する福祉ふれあい活動に対して助成するとともに、講師の派遣や情報提供等を行い、活動を支援します。 福祉教育事業とボランティア育成事業との整理を前提として、福祉教育プログラムの充実と継続的な支援体制の確立及び学校等教育機関との連携強化を図るために、連絡会を 2 回開催します。		
【目標】	助成金交付要領の見直し・改正 活動内容の把握 連絡会の開催回数及び時期（6 月・2 月）の検討		
【目標達成度を計る指標】	支援内容の精査 相互の行う事業への正しい理解と協働・協力	現状（H26） 助成金報告のみ 連絡会：2 回	目標（H27） 助成金要項見直し 連絡会：2 回

② 小・中学生福祉作文コンクールの実施

【目的】	作文をとおして社会連帯を基調とした福祉への理解と関心を深め、福祉活動への主体的な参加意識を育むために、小・中学校の児童・生徒を対象にコンクールを実施します。		
【目標】	作文を通して、「思いやり」や「たすけいあい」の意識醸成 応募数の増（中学校で取り組み強化）		
【目標達成度を計る指標】	応募者数	現状（H26） 471 人	目標（H27） 500 人

○③　ふくし一日教室の開催

【目的】	福祉施設における体験等をとおして、障がいをお持ちの方に対する理解と関心を深め、他人を思いやるやさしい福祉の心を育むことを目的として一日教室を開催します。 夏休み期間を利用し、子どもたちが保護者とともにさまざまな福祉体験をすることにより、自分自身や社会のあり方を考え、身近な地域の課題を解決できる力を育んでいけるよう、ふくし教室を開催します。		
【目標】	H26 年度実施の　「小学生ふくし一日教室」と「親子ふくし教室」の統合 体験プログラム中心とする開催		
【目標達成度を計る指標】	参加者数 費用対効果	現状（H26） 72 人	目標（H27） 84 人

○④　資格取得のための学生等実習生の受入

【目的】	社会福祉士の資格取得をめざす学生の実習を受け入れ、後継者育成に寄与します。 あわせて、職員個々の業務の振り返りをするきっかけとし、共に学ぶ機会とします。		
【目標】	社会福祉士資格取得をめざす学生の受け入れ（社会福祉援助技術現場実習）		
【目標達成度を計る指標】	受入学生数	現状（H26） 受入 3 人	目標（H27） 5 人

法人運営　関係

06　　事業推進体制の整備

1）会務等

①　理事会、監事会、評議員会、理事担当部会（総務・事業）、トップミーティングの開催

【目的】	理事会（執行機関）を 6 回、監事会（監査機関）を 3 回、評議員会（議決機関）を 2 回、それぞれ開催し、法人運営を円滑にすすめます。		
【目標】	各種会議の機能強化 出席率の向上		
【目標達成度を計る指標】	理事会への理事の出席率	現状（H26） 94.5%	目標（H27） 100.0%

②　役員研修会の開催

【目的】	役員間による情報・意見交換等をとおして資質向上と問題意識の共有化を図り、法人全体としての経営感覚を醸成するために研修会を開催します。		
【目標】	役員各位の問題意識の共有化 ＊本研修会の今後の持ち方として、任期 1 年目は先進地視察（外部研修）、同 2 年目は意見交換会（フリートーク／内部研修） H24：先進地視察（逗子市社協）、H25：内部研修、H26：先進地視察（愛川町社協）		
【目標達成度を計る指標】	研修会への役員の出席率	現状（H26） ＊H25：11/15 人 ＊H26：10/15 人	目標（H27） 15/15 人 100.0%

○③　かいせい社協改革推進会議の開催

【目標】	H26 年度答申の「かいせい社協法人運営改革委員会報告」記載事項の着実な遂行と評価及び必要な補正等を行うことを目的として、推進会議を定期的に開催します。 （同改革委員会を一部改組し構成）		
【目標】	同改革委員会報告記載事項のモニタリングとチェック		
【目標達成度を計る指標】	（項目ごと記載）実施予定年次の達成率	現状（H26） 1 回開催	目標（H27） 100%

◎④　かいせい社協発展・強化計画の策定

【目的】	開成町らしい地域福祉の推進をめざして、地域住民・社会福祉協議会・町が協働で取り組む共通理念や目標を掲げ、各推進主体が果たす役割を明確化することを目的として「第２次開成町福祉コミュニティプラン」（=町地域福祉計画／町社会福祉協議会地域福祉活動計画）を町と協働して合同策定いたします。 また、同プランを着実に遂行・実践するために必要な本会の発展・強化計画（H28-32）を別途策定します。		
【目標】	「第２次開成町福祉コミュニティプラン」策定 （地域福祉推進における共通理念（方向）の確立と役割分担の明確化） 本会発展・強化計画の策定 （事業推進のための基盤強化策（アクションプラン）の合意形成）		
【目標達成度を計る指標】	本会発展・強化計画の策定	現状（H26） 未策定	目標（H27） 策定

⑤　職員会議の開催

【目的】	職員の資質・専門性の向上と情報・課題意識の共有化を図るために職員会議を開催します（各部門別ミーティング等）。		
【目標】	PDCA サイクルの実践 職員の資質・専門性の向上と情報・課題意識の共有化 各部門別ミーティングの創設		
【目標達成度を計る指標】	PDCA の実践 週１回以上の職員ミーティングの開催 コミュニケーション強化	現状（H26） 開催	目標（H27） 相互理解の深化

2）財源の確保

①　会員加入の促進（地区別かいせい社協説明会とのリンク）

【目的】	住民組織、公私社会福祉事業関係者をはじめ、幅広い分野からの参加を得、地域社会の総意を結集することとあわせて、社会福祉への関心の喚起、町社協への参加意識の醸成のために、町社協会員の募集と会費徴収を行います（新規作成パンフレット発行含む）。		
【目標】	現行の会員加入率 63.5%（H26 実績）を自治会加入率相当の約 80%まで引き上げ （当座の目標／=自治会加入世帯は 100%本会会員） 最終的には町内全世帯加入		
【目標達成度を計る指標】	一般会員（世帯）加入率	現状（H26） 63.5%	目標（H27） 70.0%

②　寄付寄託者の拡大

【目的】	住民の皆さんから寄せられた善意の寄付金品等を受け入れるとともに、寄付寄託者の拡大を図り、自主財源の確保に努めます。 PR の強化及び使途の見える化に努めます。		
【目標】	寄付金額の前年比増 （善意の小箱設置場所増）		
【目標達成度を計る指標】	寄付金額	現状（H26 上半期） 322,085 円×2 =644,170 円見込	目標（H27） 1,100,000 円 ＊H26 目標同額

③　福祉基金の増強

【目的】	果実（利息）等を自主事業の安定した財源とするために、寄付金収入等により福祉基金の増強に努めます。		
【目標】	健全運営をめざした（避難的）基金取り崩しの回避 福祉基金積立金の増額。		
【目標達成度を計る指標】	保有額の増	現状（H26） 77,159 千円	目標（H27） 77,709 千円 （年間寄付目標 1/2 分 550,000 積み増し）

④　共同募金の実施

【目的】	神奈川県共同募金会開成町支会主管による共同募金運動に協力し、民間社会福祉事業の振興に寄与します。		
【目標】	寄付金額の前年比増		
【目標達成度を計る指標】	寄付金額	現状（H26） H24 実績：2,772,056 円 H25 同績：2,771,858 円 H26 同績：2,658,152 円	目標（H27） 2,750,000 円 H26 目標同額

3）連絡調整機能の充実

①　公私社会福祉事業関係機関・団体等との連携

【目的】	公私社会福祉事業関係機関・団体等と連携し、協働事業の推進を図ります（開成町、自治会長連絡協議会、民生委員児童委員協議会、共同募金会開成町支会、NPO、近隣社協）。		
【目標】	各機関との有機的連携強化		
【目標達成度を計る指標】	連携・ネットワークの強化	現状（H26） 実施	目標（H27） 有機的連携

②　福祉会館の管理・運営（指定管理者制度事業）

【目的】	福祉会館の施設・設備の維持・管理並びに利用に伴う運営を行います。また、利用案内等を広報紙に随時掲載し広くＰＲに努めるとともに、開成町とも連携を密にし、施設利用の充実を図ります（本会ホームページ上にて福祉会館各部屋の予約状況公開含む）		
【目標】	自主事業の定着実施 インターネットでの施設予約調査研究（神奈川県公共施設利用予約システムなど） 避難誘導訓練の実施		
【目標達成度を計る指標】	利用回数・人数等の増加 〔上半期　2,102 回／31,814 人 利用料 1,328,798 円　補填,154,093 円〕	現状（H26） 2,589 回	目標（H27） 2,800 回

③　民生委員児童委員協議会の支援（事務局）

【目的】	地域福祉推進のパートナーたる民生委員児童委員協議会（31 人）の事務局として、運営を支援します。		
【目標】	民生委員児童委員協議会の機能強化（定例会の開催、研修会の開催）		
【目標達成度を計る指標】	活動日数（年延） 研修会の開催	現状（H26） 4,601 回 （2 月末）	目標（H26 末） 5,300 回

在宅福祉サービス　関係

07　安心センター事業の推進

①　日常生活自立支援事業の実施（県社協受託事業）

【目的】	判断能力が不十分な高齢者や障がいをお持ちの方の日常生活上の金銭管理、財産の保全及び福祉サービスの利用を支援するために、日常生活自立支援事業を実施します。		
【目標】	必要な方に利用いただくための適切に事業説明及びアセスメントの実施 契約者の状況に応じた他機関との連携及び他制度への移行		
【目標達成度を計る指標】	該当者への適切な支援 モニタリングの実施	現状（H26） 契約人数９人	目標（H27） 契約人数 10 人

②　福祉対象者カルテの整備・活用

【目的】	在宅での援助を必要とする高齢者や障がいをお持ちの方等の個別状況を把握し、適切なサービス提供へつなげることとあわせて、関係機関・団体との情報の一元化を図るために名簿を整備し活用します。		
【目標】	年２回（9、２月）に情報を更新 リアルタイムな情報を整備と適切なサービス利用支援		
【目標達成度を計る指標】	更新回数 掲載者数	現状（H26） 更新（9・２月） ＊2 月更新　743 人	目標（H27） 更新２回 750 人

③　法人後見事業の調査・研究

【目的】	判断能力が不十分な高齢者や障がいをお持ちの方の権利を擁護するための法人後見事業について調査・研究します。		
【目標】	法人後見事業について調査・研究 今後の方向性の確立（第２次開成町福祉コミュニティプラン及びかいせい社協発展強化計画への位置づけ）		
【目標達成度を計る指標】	成果のまとめ 方向性を確立	現状（H26） 学習会参加 情報収集	目標（H27） 方向性確立 （発展強化計画へ位置づけ）

08　総合相談・援護事業

①　総合生活相談の実施

【目的】	住民の皆さんの日常生活上のあらゆる相談に応じ、関係機関との連携のもと、適切な助言と援助を行うことにより、福祉ニーズの把握から解決までの一貫した相談援助体制を確立するために、総合生活相談所を開設します（一般相談及び専門（法律、法務）相談）。		
【目標】	一般相談（23 回）法務相談（12 回）法律相談（12 回）の開設		
【目標達成度を計る指標】	相談受付体制の整備・強化	現状（H26） 39 件 ＊2 月末	目標（H27） 充実

②　生活福祉資金の貸付（県社協受託事業）

【目的】	低所得、障がい者または高齢者に対し、資金の貸付けと必要な相談支援を行うことにより、その経済的自立及び生活意欲の助長促進並びに在宅福祉及び社会参加の促進を図り、安定した性価値を送れるようにすることを目的とします。		
【目標】	低所得、障がい、高齢者世帯等の生活の安定 修学のために必要な資金の貸付と相談指導 償還に関する相談指導		
【目標達成度を計る指標】	相談受付体制の整備・強化 償還率	現状（H26） 問合せ・相談 35 件 貸付 11 件	目標（H27） 償還率 100%

③　小口（緊急）資金の貸付

【目的】	一時的に生活に困窮している世帯に対し教育、自立更生、疾病治療、生活の安定を図るため小口資金の貸付をします。		
【目標】	緊急に必要な資金の貸付と相談指導		
【目標達成度を計る指標】	相談受付体制の整備・強化 他制度、他サービス機関との連携	現状（H26） 相談　13 件 貸付　12 件	目標（H27） 償還率 100%

④　年末たすけあい援護費の支給

【目的】	共同募金運動の一環として、年末たすけあい募金（神奈川県共同募金会開成町支会主管）へ寄せられた寄付金の一部を激励金として計画に基づいて配分します。		
【目標】	町内 2 ヶ所の障がい者地域作業所への配分		
【目標達成度を計る指標】	配分先・方法の見直し 障がい者地域作業所への継続配分	現状（H26） 計 120,000 円	目標（H27） 計 120,000 円

⑤　災害見舞金、交通遺児援護費（県社協受託事業）の支給

【目的】	町民が災害等により被害を受け、罹災された世帯に対して見舞金を、また、交通遺児を激励するために、該当者の小・中学校及び高等学校の入学・卒業時に激励金をそれぞれ支給します。		
【目標】	災害発生後の迅速な対応と該当者への適切に支給 交通遺児を激励するための該当者への激励金を支給		
【目標達成度を計る指標】	該当者への適切かつ迅速な支給	現状（H26） 災害：発生　0 件 交通：該当者なし	目標（H27） 交通：該当者 1 人

09　　在宅福祉サービスの推進（介護保険外）

①　福祉機器貸与事業の実施

【目的】	在宅で日常生活をおくることに支障のある高齢者や障がいをお持ちの方等に対し、必要とする福祉機器を貸与し、その在宅生活を支援します（ギャッジベッド、車イス等）。		
【目標】	必要時に迅速に貸出が行えるよう所有する機器の在庫管理、メンテナンス 要項の一部改正		
【目標達成度を計る指標】	利用件数 要項の一部改正	現状（H26） 151 件 ＊1 月末	目標（H27） 200 件

◯②　ふくし移送サービスの実施

【目的】	歩行困難な高齢者や障がいをお持ちの方等（公共交通機関を利用することが困難な方）の在宅生活を支援するため、日常生活上の移動手段による利便提供として、ふくし移送サービスを実施します（福祉有償運送対応事業）。		
【目標】	利用しやすいサービスへの移行検討 利用件数の増（利用範囲の検討）に向けて新たな周知方法を検討		
【目標達成度を計る指標】	利用件数 アセスメントとモニタリング	現状（H26） 120 件 ＊1 月末	目標（H27） 140 件

○③　軽度生活援助事業の実施

【目的】	65 歳以上の高齢者のみの世帯に対し、ヘルパーを派遣し軽易な日常生活上の援助を行うことにより、自立した生活の継続を可能にするため、軽度生活援助事業を実施します（清掃、調理、買い物等）。		
【目標】	定期的なモニタリングによる状態の把握 適切なサービスの提供 高齢者に限らず、子育て中の家庭や妊婦へのサービス提供の検討（対象範囲の拡大）		
【目標達成度を計る指標】	派遣件数・派遣内容 アセスメントとモニタリング	現状（H26） 372 回 ＊1 月末	目標（H27） 580 回

④　ミニ・デイサービス「ふれあい金曜会」の実施

【目的】	外出することの少ない高齢者がつどい、ふれあいのなかから相互の交流と仲間づくりを図ることにより、孤独感の解消と社会参加を促進するために、ミニ・デイサービスを実施します（おしゃべり、歌、散歩、レクリエーションゲーム等）。		
【目標】	実施回数（24 回／年） 実施内容（各種イベントの開催） 登録（参加）人数		
【目標達成度を計る指標】	参加者数	現状（H26） 355 人 ＊1 月末	目標（H27） 430 人

○⑤　レスパイト（障がい児者家族等の休息）サービスの実施（ボランティア養成含む）

【目的】	障がいをお持ちの児童・生徒を夏休み期間中一時的に預かり、介護者の身体的・精神的な負担軽減と、当事者の情緒安定等を図ることを目的として、レスパイトサービスを実施します（レクリエーションゲーム、工作、おやつづくり等）。		
【目標】	利用者（登録者）の拡大 受入体制の整備（ボランティア養成講座の開催・後継者育成）		
【目標達成度を計る指標】	利用者（登録者）数 アセスメントとモニタリング ボランティア養成講座の開催	現状（H26） 69 人	目標（H27） 養成講座開催 ボランティア確保

◎⑤　コミュニティバスの運行

【目的】	高齢化の進展に伴い、「新たな公共交通を…」との要望が多方面から出されている中、町民の利便性の向上と外出の機会とコミュニティの場を提供することを目的とします。 コミュニティバスの利用者の把握や運行時の利用状況を調査します。		
【目標】	広く住民の方に対して日常生活上の移動手段による利便とコミュニティの場として運行 （1 日 4 便、月から金曜日） 利用状況を調査と報告		
【目標達成度を計る指標】	運行日数・便数　乗車数	現状（H26） 未実施	目標（H27） 4 便/日・月～金運行

10　　介護保険事業の推進

①　居宅介護支援事業（ケアマネジメント）の実施（“介護予防”居宅介護支援事業含む）

【目的】	介護保険関連法令に従い、可能な限り自立した日常生活を送るために必要な居宅サービスが利用できるよう、居宅サービス計画（ケアプラン）を作成するとともに、計画に基づいて適切な居宅サービスの提供が確保されるよう、サービス事業者等との連絡調整を図ります。		
【目標】	安定的な利用者確保（70 件／月） 他機関、他事業所との連携強化		
【目標達成度を計る指標】	プラン立案件数 収支バランス	現状（H26） 755 件＊見込	目標（H27） 840 件

② 通所介護事業（デイサービス）の実施（“介護予防”通所介護事業含む）

【目的】	介護保険関連法令に従い、利用者に対し可能な限り居宅で自立した日常生活を送るために、介護給付及び介護予防給付対象となる機能訓練やレクリエーション、給食、入浴等の通所介護事業（デイサービス）を行います。		
【目標】	可能な限り「利用者本位」を優先するサービス提供 定員充足率の維持（平均 13 人／日） CM 事業所への報告・連携の強化		
【目標達成度を計る指標】	一日あたり平均利用者数 収支バランス 広報の充実・リニューアル	現状（H26） 10.06 人／日 ＊1 月末現在	目標（H27） 13.0 人／日 平均利用者数

③ 介護保険事業利用者等意向調査の実施

【目的】	居宅介護支援事業及び通所介護事業の利用者・家族の意向・要望等を把握し、今後のより質の高いサービス提供・運営に反映していくことを目的として、アンケート調査を実施します。		
【目標】	利用者（家族）様及び関係機関の意識（満足度）調査		
【目標達成度を計る指標】	サービスに概ね満足している利用者の割合	現状（H26） 未実施	目標（H27） 満足度アップ 95.00%

11　地域包括支援センター事業

●地域包括支援センター事業

【目的】	高齢者が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を送れるよう、介護・福祉・健康・医療などのさまざまな面からの支援を行い、多様化するニーズに対応していきます。各々の提供システムが分断されることなく包括的、継続的につながるしくみである「地域包括ケアシステム」構築に向け、町（保険者）と連携を図りながら取り組んでいきます。※詳細ー別紙事業計画案参照

① 介護予防事業・二次予防事業の実施（開成町受託事業）

【目標】	開成町が必要と認めた二次予防対象者に対する必要なサービス提供や相談 心身機能の低下を防ぎ、いつまでも住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう、健康状態や生活状況の確認		
【目標達成度を計る指標】	訪問による状況把握と対応策にもとづく介護予防の実施	現状（H26） 実施	目標（H27） 充実

② 包括的支援事業 1（介護予防マネジメント事業）の実施（開成町受託事業）

【目標】	対象者が要介護状態になることの予防と心身の状況に応じた介護予防事業を効率的に活用できるための介護予防プランの作成		
【目標達成度を計る指標】	介護予防プラン立案件数	現状（H26） 670 件	目標（H27） 675 件

③ 包括的支援事業 2（相談窓口・支援事業）の実施（開成町受託事業）

【目標】	介護保険に関するもののほか、高齢者の生活全般にわたる幅広い相談を受け付け、専門的・継続的な観点から必要なサービスや機関へつなぐ支援を行うための相談窓口体制の強化		
【目標達成度を計る指標】	相談窓口体制の整備・強化	現状（H26） 実施	目標（H27） 充実

④ 包括的支援事業 3（権利擁護事業）の実施（開成町受託事業）

【目標】	高齢者が安心して暮らせるよう、関係機関と連携を図り、権利擁護相談や高齢者虐待防止の取り組み		
【目標達成度を計る指標】	連携強化と地域包括ケアシステムの構築へ向けた検討	現状（H26） 実施	目標（H27） 充実

⑤　包括的支援事業４（包括的・継続的ケアマネジメント事業）の実施（開成町受託事業）

【目標】	医療機関との連携や介護支援専門員への後方支援、ネットワークづくりへの取り組み		
【目標達成度を計る指標】	居宅介護支援事業者連絡会の開催	現状（H26） ４回	目標（H27） ４回

⑥　任意事業の実施

【目標】	認知症施策の推進、介護者の健康維持・増進と介護負担の軽減、適切な介護知識・技術の習得、地域住民への啓発するための開成町や民生委員児童委員協議会、自治会福祉部等との協力		
【目標達成度を計る指標】	認知症サポーター養成事業への協力	現状（H26） ３回	目標（H27） ３回
	介護家族教室・介護者のつどいの開催	現状（H26） ４回	目標（H27） ４回